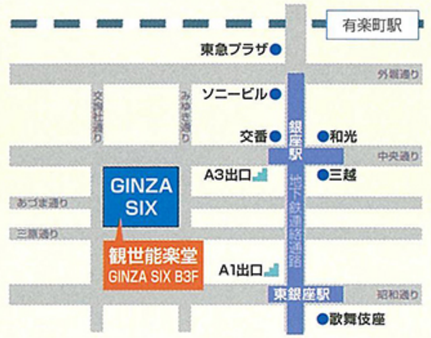
梅若研能会

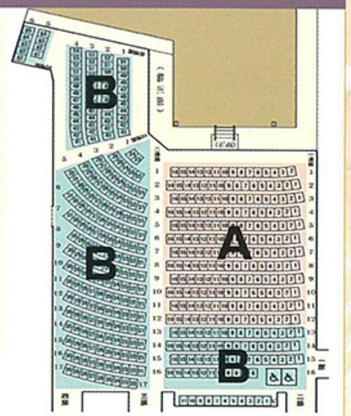
六月公演

【頼政】三世 梅若万三郎（前島写真店）

令和6年6月9日（日）午後1時始（開場12時）
於 観世能楽堂 *Kanze Noh Theater*
GINZA SIX, B3F,6-10-1,Ginza,Chuo-ku,Tokyo
Sunday 9 June 2024 Start 13:00 (door open 12:00)

二十五世観世左近記念 観世能楽堂





東京都中央区銀座6-10-1GINZA SIX 地下3階
TEL 03-6274-6579

- 銀座駅　東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線　A3 出口より徒歩 2 分
- 東銀座駅　東京メトロ日比谷線・都営浅草線　A1 出口より徒歩 3 分
- 有楽町駅　JR 山手線・京浜東北線、東京メトロ有楽町線　銀座出口より徒歩 10 分

入場料（全席指定）

指定席A	7,000円	※学生割引（要学生証） 各席 3,000 円引き
指定席B	6,000円	

お問い合わせ・お申し込み

e+（イープラス）https://eplus.jp/ath/word/69495

カンフェティ TEL0120(240)540（平日10:00-18:00）
http://www.confetti-web.com/umeken

公益財団法人 梅若研能会
〒151-0066渋谷区西原1-4-2　TEL 03(3466)3041
《メールアドレス》staff@umewakakennohkai.com
《ホームページ》http://www.umewakakennohkai.com

YouTube はじめました！チャンネル登録をお願いします！

フェイスブックはじめました！ 公演情報更新中！

令和６年梅若研能会　今後の公演開催日のお知らせ

橘香会	10月14日（月・祝）	国立能楽堂
十二月公演	12月19日（木）	観世能楽堂

【杜若】三世 梅若万三郎（前島写真店）

能「頼政」「杜若」みどころ講座

5月25日㊏　13:00 ～ 14：30
於・梅若万三郎家能舞台（渋谷区西原１－４－２）

受講料　1,000 円（※研能会入場券購入者は無料）
講　師　「頼政」青木 一郎（あおき いちろう）
「杜若」八田 達弥（はった たつや）

梅若研能会六月例会

令和六年六月九日(日)午後一時始(午後十二時開場)
於 観世能楽堂

仕舞
氷室(キリ) 伊藤 嘉章
巻絹(クセ) 梅若 泰志
山姥(キリ) 中村 政裕

地謡
梅若 志長
遠田 修
梅若 紀長
古室 知也

青木 一郎

能 **頼政**

前シテ(尉) 後シテ(源三位頼政) 青木 一郎
ワキ(旅僧) 宝生 常三
アイ(里人) 小梶 直人

大鼓 佃 良勝
小鼓 久田舜一郎
笛 槻宅 聡

後見 青木 健一
中村 裕

地謡
加野 鉄音
萩原 郁也
梅若 泰志
梅若 紀長
古室 知也
加藤 眞悟
長谷川晴彦

(二時四十分頃)
狂言 **千鳥**

シテ(酒屋) 大藏彌太郎
アド(主人) 高木 謙成
アド(太郎冠者) 大藏 章照

休憩二十分

(三時二十五分頃)
能 **杜若**

八田 達弥

シテ(杜若の精) 八田 達弥
ワキ(旅僧) 大日方 寛

大鼓 佃 良太郎
小鼓 幸 正昭
太鼓 小寺真佐人
笛 一噌 隆之

後見 梅若 紀佳
加藤 眞悟

地謡
梅若千音世
遠田 修
梅若 志長
梅若 泰志
中村 政裕
伊藤 嘉章
青木 健一
長谷川晴彦

(終演予定 四時四十五分頃)

能 頼政(よりまさ)

宇治に来た僧に名所を教えた老人は平等院に案内し、源頼政が自害した扇の芝について語り、頼政の霊だと言って消える。夜半、法師の姿に甲冑を帯びた頼政の霊が現れ、平等院に布陣して橋板をはずしておいたが、平家方は軍勢を見事に指揮して馬で川を渡りきったものの頼みにした我が子の仲綱、兼綱兄弟も討たれ、敗北し、扇の芝で辞世の句を詠んで自害したという敗戦の様子を語って消えた。

狂言 千鳥(ちどり)

ある日の急な来客に、家の主は太郎冠者を呼びつけ、酒屋へいって酒を貰ってくるよう命じた。しかし、太郎冠者は「前の支払いが終わっていないので、きっと譲ってはくれないでしょう」と諫言する。主はうまく取ってこられたら褒美をやると約束し、太郎冠者を無理矢理追い立てた。酒屋の主人に酒を無心してみるが、案の定、前回の支払いが終わらねば渡す事は出来ぬと突っぱねる。思案した太郎冠者は珍品を好む酒屋の主人に面白い話を聞かせ、その隙をついて酒をかっぱらう事を思いつく。そして、「津島祭りで見た千鳥を取る話をしよう」と仕形話を始める。酒屋の主人に囃させ、謡い舞いながら隙を見て酒樽に手をかけるが、失敗する。再度流鏑馬の話をして気を引こうとするも、用心した酒屋の主人は酒樽を話に使わぬよう釘をさされる。太郎冠者は木杖にまたがり、流鏑馬の騎手の態で一回りしながら酒樽を担ぎ、一目散に逃げ出す。

能 杜若(かきつばた)

三河国八橋にやってきた僧が、咲き乱れる杜若に見惚れていると、里女が現れ、ここは杜若の名所として名高い八橋であるというと「伊勢物語」にある「かきつばた」の五文字を織り込んだ在原業平の杜若の歌「からころも、きつつなれにし、つましあれば、はるばるきぬる、たびをしぞおもふ」を教え、自分の庵へ招き入れる。やがて業平と高子后の装束に身を包んだ杜若の精の姿を現し、「伊勢物語」に語られた恋物語の数々を優美に舞う。